５種混合

◆５種混合とは？

ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・Ｈｉｂ（ヒブ）の混合ワクチンです。
令和６年４月から、定期予防接種となりました。

■各疾患について

＜ジフテリア＞

ジフテリアは、ジフテリア菌の飛まつ感染（くしゃみやせき等による感染）によっておこる病気です。のどや鼻に感染し、高熱やのどの痛みが主な症状です。のどに白い膜ができ、最悪の場合、その膜によって窒息死に至ります。また、菌の出す毒素によって神経麻痺や心臓の筋肉の障害などの重い後遺症を残します。

＜百日せき＞

潜伏期は通常５～１０日（最大３週間程度）であり、かぜの様な症状で始まり、次第に咳が著しくなり、百日せき特有の咳が出始めます。典型的な症状は、顔を真っ赤にしてコンコンと激しく咳き込み、最後にヒューッと音を立てて、大きく息を吸う発作となり、嘔吐も伴い、眼瞼の浮腫や顔面の点状出血がみられることがあります。乳幼児や年長児、また成人では典型的な症状が見られず診断が難しいことがあります。

乳児では、重症になり、特に新生児がかかると無呼吸になり、致死的となることがあります。

肺炎、脳症を合併することもあります。

＜破傷風＞

破傷風は土の中にいる菌で、傷口から感染します。目に見えないような小さな傷からも感染します。症状は菌の出す毒素によって口が開かなくなったり、けいれんを起こし、死亡する場合もあります。破傷風は自然感染によって免疫ができる病気ではないため、発生防止には予防接種以外に方法はありません。

＜ポリオ＞

ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排出され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもありますが、乳幼児がかかることの多い病気です。

感染しても多くの場合、病気としての明らかな症状は現れずに、知らない間に免疫ができますが、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺が現れ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。世界では、ポリオウイルスは激減していますが、南アジアやアフリカなどのごく一部の地域では、現在でもポリオが流行しています。

＜Ｈｉｂ（ヒブ）感染症＞

ヘモフィルス・インフルエンザ菌ｂ型による感染症です。ヒブは、鼻やのどについたり消えたりを繰り返している常在菌の１種であり、多くの場合ヒブに対する免疫は５歳頃までに自然に獲得されます。そのため、この感染症は免疫のない生後３か月から２歳までに多くみられます。

感染症の主要なものとしては、髄膜炎、敗血症、肺炎などの全身感染症や、中耳炎、気管支炎などの気道感染症を起こす病気です。

病気の始まりはかぜなどと区別がつきにくく、血液検査でもあまり変化が出ません。このため診断が遅くなりがちです。その後にけいれんや意識障害が出てきます。

また、髄膜炎による後遺症として、発達・知能・運動障害などの他、難聴（聴力障害）が

起こることがあります。

【対象年齢・接種スケジュール】

対象年齢：生後２か月～７歳６か月未満

標準的な接種期間	接種回数	標準的な接種スケジュール
第1期初回: **生後2か月から** **7か月までに開始** **第1期追加:** **初回接種(3回)後、** **6か月から1年半**	**4回**	 **初回:** **20～56日の間隔で3回** **追加:** **6か月から** **１年半後に1回**

※ジフテリア・破傷風については、１１～１３歳未満で追加接種をします。

【副反応について】

注射部位の紅斑、腫脹、硬結（しこり）などの反応が主です。これらの副反応のほとんどは接種３日後までに見られます。なお、硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが数ヶ月残ることがあります。特に敏感な子で肘を超えて上腕全体が腫れた例がありますが、これも冷水で冷やすことで軽快します。そのほか発熱・食欲減退などが見られます。

【接種後の注意について】

接種当日は過激な運動は避け、接種部位を清潔に保ってください。また、接種後の健康状態に留意し、局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、けいれん等の異常を呈した場合には、速やかに医師に連絡し、診察を受けてください。